

# 旧採進堂酒店 民泊施設に

浪木さん「地域の価値高める」



温泉地の隆盛を今に伝える旧採進堂酒店の主屋



浪木克文さん

福島市の飯坂温泉が栄えた時代を象徴する国登録有形文化財（建造物）の「旧採進堂酒店」が、民泊施設として活用される見通しとなった。老朽化が進み保存も危ぶまれていたが、地方創生や企業支援に取り組み、イノベーション（福島市）の社長浪木克文さん（59）が文化財としての価値を残して改修することを決めた。浪木さんは「始動はこれからだが、地域の価値を高める拠点としてよみがえらせたい」と、新たな魅力創造への決意を語る。

旧採進堂酒店の近くには、俳聖松尾芭蕉も浸かったとされる鱒湖湯や豪農・豪商の旧家「旧堀切邸」、白壁が美しい国登録有形文化財「なかむらや旅館」などがあり、飯坂温泉の中でも特に情緒が感じられる場所となっている。温泉街の隆盛を今に伝える外観から「地域の財産」とも呼ばれる旧採進堂酒店だが、老朽化や所有者の高齢化もあり、一時は解体も検討された。

Q 旧採進堂酒店 福島市の飯坂温泉の中心部に位置する元小売店舗で、明治時代中期ごろに建築された。主屋・土蔵ともに木造2階建てで、山形の屋根をした切妻造り。通りに面した主屋正面には大きな銘酒の看板が掲げられ、温泉地の隆盛を今に伝える。土蔵は主屋の背面に接続して建ち、伝統的な町家の構成が分かる上質な造りの座敷蔵が現存している。2019年9月に国の有形文化財に登録された。

浪木さんは長期休暇が一般に旅行を楽しむスタイルも普通だという。旧採進堂酒店の2階には4部屋の民泊施設、1階には購入した酒をそのまま立ち飲みする「角打ち」や射的コーナーを設ける考えで、浪木さんは「文化財の雰囲気を生かし、インバウンド（訪日客）を含め、外から訪れた人が魅力を感じられる場所にしたい」と語る。

浪木さんは、入湯手形を使って異なる宿の湯巡りができる黒川温泉（熊本県）の成功事例なども参考に、温泉旅館が全盛時の約120軒から三十数軒に減少した飯坂温泉だが、「公共交通機関にも恵まれた飯坂温泉を地域全体として人が集まる場所にするのが最終目標。二度と逃れない建物を壊すことばらばらに、移住後は「残りたいと思える、魅力ある地域をつくる」とをイメージしてきた。

浪木さんによると、自身の民泊施設を利用する6割は外国人で、特に欧米人が多いという。

Q 旧採進堂酒店 福島市の飯坂温泉の中心部に位置する元小売店舗で、明治時代中期ごろに建築された。主屋・土蔵ともに木造2階建てで、山形の屋根をした切妻造り。通りに面した主屋正面には大きな銘酒の看板が掲げられ、温泉地の隆盛を今に伝える。土蔵は主屋の背面に接続して建ち、伝統的な町家の構成が分かる上質な造りの座敷蔵が現存している。2019年9月に国の有形文化財に登録された。

▲ 7月15日 福島民友新聞掲載

「旧採進堂酒店」が民泊施設として活用されるようになったのは、浪木さんのどんな決意があり、地元のどんな声があったからですか？

浪木さんは、改修した「旧採進堂酒店」をどんな場所にしたいと思っていますか？

国登録有形文化財の登録基準やその活用について、調べてみよう！